

東京神学大学 事業報告書 (2016 年度)

I 法人の概要

1. 設置する大学と建学の精神

学校法人東京神学大学は、神学部神学科の学部、並びに組織神学専攻と聖書神学専攻を擁する大学院（博士課程前期、後期課程）を設置しています。これに併せて総合研究所（日本伝道研究所並びにアジア伝道研究所）を付設しています。入学定員は学部 10 名（別途編入学定員 25 名）、大学院博士課程前期課程は各専攻 15 名、博士課程後期課程は各専攻 2 名です。2016 年度の学生数は学部 53 名、大学院 50 名、計 103 名（5 月 1 日現在）です。

本学は、福音主義のキリスト教神学を研究し、福音の宣教に従事する教役者（牧師、キリスト教学校の聖書科教員などの伝道者）を養成すること、特に日本基督教団の教職者の養成と神学的指導の使命を担うことを「建学の精神」としています。これによって教育と事業を貫く「基本理念」を以下のように表明しています。「キリスト教の信仰に基づいた有為な指導者を教育し、教会・キリスト教学校・病院・諸施設等に送り、人類的な新たな地球共同体——それはまさにイエス・キリストが示した神を愛し、己のごとく隣人を愛する人格的存在がお互いに自由と謙遜を持って築き上げる共同体である——の担い手を涵養育成すること、またそのために専門的な神学の理念と応用を修得させることである」（本学ホームページの「東京神学大学の理念・目的〈建学の精神〉より」）。

2. 東京神学大学の沿革

東京神学大学は、日本基督教団の成立に併行して、福音主義キリスト教各派の神学機関を統合しながら成立し、この成立史とそこから生じる使命のゆえに「教団立神学校」として、今日に至っております。成立の経緯の概要は以下の通りです。

- 1856（安政 6）年 プロテスタント諸教会の宣教師たちが日本で宣教を始める。
- 1872（明治 5）年 横浜に最初の教会「日本基督公会」が設立される。
- 1873（明治 6）年 宣教師の S・ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開校。
- 1877（明治 10）年 「東京一致神学校」（後の明治学院）開校。
- 1904（明治 37）年 植村正久牧師により「東京神学社」設立。
- 1930（昭和 5）年 本学の前身「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」が合流。
- 1941（昭和 16）年 プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団設立。
- 1943（昭和 18）年 教派ごとに分かれていた 15 の神学校が「日本東部神学校」・「日本西部神学校」・「日本女子神学校」の 3 校に統合される。
- 1944（昭和 19）年 「日本東部神学校」・「日本西部神学校」が、さらに「日本基督教神学専門学校」として合流。
- 1945（昭和 20）年 「日本女子神学校」の後身「日本基督教女子神学専門学校」も「日本基督教神学専門学校」に合流。
- 1949（昭和 24）年 新制度による大学として「東京神学大学」となる。
- 1951（昭和 26）年 私立学校法の公布に伴い「学校法人東京神学大学」に組織変更。千代田区富士見町から三鷹市牟礼に移転。
- 1966（昭和 41）年 三鷹市牟礼から現在地（三鷹市大沢）に移転。
- 1968（昭和 43）年 本館東部部分を増築。

1986（昭和61）年 本館から独立させて図書館棟を建設。

2011（平成23）年 韓国イエス教長老教会神学大学と相互協力協定を結ぶ。

3. 役員・教職員の概要（2017年3月31日現在）

(1) 理事（18名）

理事長	伊藤 瑞 男	理 事	小 林 眞
学長理事	芳 賀 力	〃	佐々木美知夫
財務理事	長 山 信 夫	〃	嶋 田 順 好
常務理事	深 谷 松 男	〃	楠 本 史 郎
〃	岩 澤 嵩	〃	W.ジャンセン
〃	藤 掛 順 一	〃	數 井 紀 彦
〃	山 本 和	〃	東 野 尚 志
〃	棟 居 洋	〃	松 井 睦
理 事	木 下 宣 世	〃	黒 沼 健

(2) 監事（2名）

監 事	小山田小八郎
〃	齋 藤 孝

(3) 評議員（37名）

評 議 員	岡 村 恒	評 議 員	藤 掛 順 一
〃	山 畑 謙	〃	山 縣 史 子
〃	服 部 修	〃	黒 沼 健
〃	武 田 真 治	〃	大 住 雄 一
〃	小 林 眞	〃	朴 憲 郁
〃	杉 森 耀 子	〃	芳 賀 力
〃	半 田 浩 介	〃	井ノ川 勝
〃	望 月 修	〃	佐々木美知夫
〃	岩 澤 嵩	〃	小 堀 康 彦
〃	山 本 和	〃	古 屋 治 雄
〃	宍 戸 基 男	〃	黒 米 理 恵
〃	市 川 一 宏	〃	渡 邊 義 彦
〃	松 井 睦	〃	深 谷 松 男
〃	W.ジャンセン	〃	D.リーディー
〃	木 下 宣 世	〃	嶋 田 順 好
〃	東 野 尚 志	〃	棟 居 洋
〃	數 井 紀 彦	〃	片 桐 牧 雄
〃	長 山 信 夫	〃	戸 塚 智 之
〃	楠 本 史 郎		

(4) 教育職員 (14名)

学 長	芳 賀 力	教 授	W. ジャンセン
教 授	大 住 雄 一	〃	小 泉 健
〃	関 川 泰 寛	准 教 授	焼 山 満 里 子
〃	朴 憲 郁	〃	須 田 拓
〃	神 代 真 砂 実	〃	長 山 道
〃	小 友 聡	特 任 教 授	棚 村 重 行
〃	中 野 実	助 教	田 中 光

(5) 事務職員 (13名)

事務長	片 桐 牧 雄		
総務課	戸 塚 智 之	(小 林 由 希 子)	飯 塚 一 夫
経理課	光 永 豊	福 本 浩 子	
財務課	松 本 秀 則		
教務課・学生課	小 林 由 希 子	萩 原 なおみ	山 田 雅 子
図書館	木 下 真 由 美	岸 本 苑 子	今 中 匡 彦
	保 坂 久 実		

II 事業の概要

本学では、2012(平成 24)年度を本学の教育・事業進展と新たな「大学改革の年」と位置づけ、そのための諸課題の自覚と改革に取り組むことを各年度目標としてきた。その結果、大学基準協会から 2013(平成 25)年度から七年間の「大学認証評価」を受け、文部科学省の「法人運営調査」も終了した。

そうした近年の大学改革の試みの延長戦上にある 2016(平成 28)年度全体の本学の教育・事業の進捗状況や主たる改革努力について事業の概要を、ここで報告することとしたい。

1. 教育理念・目的および教育内容・方法・成果にかかわること

本学では、かつて博士課程後期課程修了者（つまり神学博士号取得者）は、論文博士として論文審査を経て学位を取得する者が多数であった。しかし課程博士の博士号取得者を増やす必要を自覚し、以下の諸改革を積み重ねてきた。①2010(平成 22)年度より、年に一回、6 月頃に博士課程後期課程在学者による研究発表会を開催し、各専攻分野から適格者 2 名を選び、教授、在学生も参加する研究発表会を開き、そこでの質疑応答をもとに発表者には本学の二種類の学術論文雑誌へ寄稿を認めている。②また外国語学力認定試験の受験時期や受験回数についても、柔軟な対応が可能となる規則改正をも併せて行ってきた。

特に重大な改革としては、③2012 年度より規則化され、以後運用化された長期履修制度の導入がある。つまり、本学の修士課程修了後、牧師として任地へ赴き牧会をしながら、あるいは他大学でキリスト教関係科目の教育を担当しながら、同時に週一日本学の博士課程後期課程へ在学しつつ、論文提出資格を取得させる制度改革である。これにより、以前よりもスケジュール的にも精神的にも余裕をもって後期課程での学びを開始ないし続けることができる学生たちの数が増加しつつある。

2. 教育研究組織および教員・教育組織にかかわること

a. 授業担当者能力養成 (FD)

本年度も、前期・後期にわたり科目を選択して交代させながら、学部と大学院双方で、授業効果調査アンケートを行い、それらの調査結果を授業担当者全員に開示した。2016(平成 28)年 3 月の特別教授会では、1 年間の FD 活動の反省を行った。

b. 大学院博士課程後期課程在学者の研究発表会

2016 年 6 月 21 日の一般講演時間に、第 7 回大学院博士課程後期課程研究発表会を開催し、在学中の聖書神学専攻および組織神学専攻の男性各 1 名が、研究発表を行った。出席者は 40 名ほどで、二人の成果は後に本学の神学雑誌に掲載される予定である。伝道心ある神学研究的牧師の研究発表の機会でもあり、全学行事としても定着しつつある。

c. 全学生のための神学フォーラムの開催

本学教授たちの発題による「神学フォーラム」が、今年度の後期に全学生を対象にして開催された。テーマは「これからの日本伝道－日本伝道協議会を踏まえて－」であった。今年度は、2016 年 10 月 4 日の一般講演時間に、歴史神学、実践神学および組織神学担当の三教師が、それぞれ発題を担当した。いずれも、教授陣と学生たちとの神学的のみならず実践的な議論と交流の機会となった。

d. 今年度は定年退職教員を特任教授として採用したため、教育職員の定数 14 名を維持することができた。

3. 学生の受け入れにかかわること

a. 新入学生の動向

2016（平成 28）年度には、神学部・神学科 1 年次には 4 名、同部 3 年次には 21 名、合計 25 名の神学部への新入学生を加え、スタートを切った。2015 年度の新入学生が 13 名であったので、それよりも 12 名の増であった。しかし毎年本学は気を緩めることなく、学生募集の努力を求められている。

b. 高校生会、青年の集い、オープン・キャンパス行事

①本年度も、7 月に本学の学生会主催の「高校生会」がもたれ、高校生 5 名が参加された。10 月には 3 名、3 月にも中高生及び OB が 6 名参加された。将来の志願者獲得のためにも、学生会主催のこの会が継続できるように本学挙げて支援する所存である。

②本学主催の「第 18 回青年の集い」は、2016 年 9 月 24 日に本学で開催され、80 教会から 146 名が参加した。昨年度より 5 名増であるが、神学生と教職が多かった。青年は 7 名減であった。

③「オープンキャンパス」も、2016 年 12 月 3 日に実施され、学外からは 24 名、受験相談は 14 名が参加した。昨年度同時期の行事に比べると、学外参加や受験相談者の数が微増ではあるが、こうした地道な努力が中長期的に本学の志願者増大へと結びつくよう期待している。

4. 学生支援にかかわること

a. 障がい者への配慮

2011（平成 23）年度以来視覚障がいをもつ学生 1 名を受け入れ、落ち着いた学内での生活を続けている。今年度は、視聴覚障がいのある学生が図書館で OPAC 検索を利用するために、専用のソフトウェアを導入した検索機を 1 台新規に導入した。

b. 学内モラルの向上プログラム

2016（平成 28）年 4 月 19 日の本学の一般講演時間帯に開催された神学校全学集会では、神代真砂実教授が「学問的倫理基準について」と題して説明された。また小泉教授が神学生の生活倫理について解説し、有意義な時をもった。

c. 夏期伝道実習および神学生出席教会の牧師との懇談会

本年度の夏期伝道実習は、2016 年 7 月 24 日～8 月 21 日まで、全国各地の諸教会で牧師の指導のもとに行われた。実習参加者は、学部 4 年生 17 名、大学院修士課程 1 年生 20 名、大学院修士課程 2 年生 1 名合計 38 人であった。秋には、実習先教会牧師の報告書と実習生の報告をもとにして、実習委員会の教授たちが参加学生と面談した。そこでさまざまな課題を共に話し合い、今後の大学と出席教会における学生の訓練の生活に役立てるように話し合いの時を持った。

また昨年度に引き続き 9 月 23 日には、後期始業式の後、神学生が週ごとに出席し訓練を受けている諸教会の牧師 28 名と教授会のメンバーとの懇談会も持たれた。今年度は真壁巖牧師と篠田真紀子牧師が発題された。教会と神学校が協力して神学生の成長に寄与するための会合である。

d. 留学生との懇談会

小規模大学のユニークな試みとして、毎年秋に教授会全員と留学生全員との懇談会を持っている。目的は、留学生の一人一人の実情を知り、あるいは共通課題を理解し合うためである。本年度は、2016 年 11 月 15 日 11 時 30 分から 12 時 30 分までの一時間余り懇談の時を持った。7 人の留学生と教員 10 名が参加した。留学生の範疇に属さないが課題を共有する学生を招いてもよかった。今後も継続する予定である。

e. 卒業予定者の就職状況

今年度は、大学院修士課程前期 2 年生の修了者は 10 名で、全員が学窓をいでて教会およびキリスト教主義学校へ派遣された。

5. 社会連帯・社会貢献にかかわること

a. 韓国のイエス教長老会神学大学との交換教授プログラム

本年度 2016 年 6 月 28～29 日には、イエス教長老会神学大学から裴熙淑（ペ・ヒスク）准教授を本学にお招きし、講演、旧約神学の演習など多岐にわたる日韓両教育機関の交流に寄与した。

b. 学校伝道協議会の開催

2016 年 5 月 21 日に本学を会場にして「第 17 回学校伝道協議会」が開催された。主題は「若者にとってのキリスト教教育の意義 ～受け手の視点から～」であった。出席者は 74 名、リピーターも増え、ここ数年間出席者は安定化する傾向にある。とくにキリスト教教育の神学的理念の探究面で独自の役割をもち、それを踏まえた教育の担い手の交流に寄与する会として成長が期待されてきている。

c. 日本伝道協議会全国大会および全国東京神学大学後援会活動

①2016 年 6 月 6～7 日にわたり日本伝道協議会全国大会が開催された。主題は、「伝道の最前線 ー危機からの再生ー」で、小友教授が講演した。第一日目は、参加者は学外と学内併せて、142 名であった。第二日目は、会場を銀座教会に移し、信徒の方々と学内関係者も合わせ全員で 121 名であった。

②本年度も、北は北海道から南は沖縄まで、全国 37 か所で東京神学大学後援会・講演会に多くの教職・信徒の方々が参加した。教会数は延べ 332 教会、参加者総数は 1,592 人であった。

d. 教職セミナーの開催

2017(平成 29)年 1 月 10 日～12 日まで、例年どおり代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に開催された。主題は「宗教改革の意義とその展開」で、本年度の神学雑誌『神学 78 号—宗教改革の意義とその発展』と題して深く関連したテーマであった。大変実践的で身近なテーマであったため、多数の参加を得て充実した学びの時であった。参加者は、教職（外部 98 名）・前期課程修了予定者・教職員をあわせ、126 名であった。

e. 東京神学大学公開夜間講座

本講座は、毎週二回（月・金曜日：午後 6:00～8:00）、銀座教会で開催されてきた、70 年の歴史をもつ一般信徒のための公開講座である。三学期にわたり、神学入門、旧約聖書、新約聖書、組織神学、教会史や世界宗教史、キリスト教美術や音楽、実践神学などの諸学を講師から学ぶ。この他にも夏期と春季の研修会もある。本年度は、2 年間で修了をめざす第 69 期・70 期生計 33 名、科目毎聴講生延べ 9 名であった。この公開講座の内容の充実のために、さらに工夫が求められる時代だと思われる。

6. 内部質保証（自己点検評価）および「学校法人運営調査」にかかわること

東京神学大学「内部質向上委員会」の設置

2013 年 7 月に本学の「内部質向上委員会」とその組織図とが承認された。本学における FD 活動と自己点検評価活動、それに学生会の授業アンケートにもとづく自主的懇談会を統括する委員会がここに誕生した。委員は、学長、書記、自己点検委員長、教務課主任、学生課主任の五名である。2015 年 11 月 17 日に、本学と関係が深い宗教法人日本基督教団の教師委員会の委員長と委員計 2 名が来校し、『2014 年度自己点検評価書』に基づき懇談の時をもち、また後日両名の方から外部評価書を受け取った。

7. 施設や設備に関する主たる事業について

a. 空調設備の更新

2016 年度は空調設備の更新が相次ぎ、実施した。特に経年劣化による更新が主たる要因であった。本館では新約研究室、旧約研究室、名誉教授室、講師控室の4件であった。

b. 建物施設関係

本館事務室内と図書館事務室内の有線による LAN 配線を一新し、また本館と図書館を繋ぐ LAN 配線も一新したため、接続環境が改善した。

c. 修繕関係

本館地下室消火栓ポンプ更新とあわせ屋内消火栓設備ホースの交換も実施した。医務室改修工事、図書館閉架書庫 LFD 化も実施した。

8. 主たる行事

- ・ 4 月 4 日 公開夜間神学講座開講式 銀座教会
- ・ 4 月 5 日 入学式・前期始業式
式 辞：芳賀 力学長
始業講演：「説教学の新しい展開」 小泉 健准教授
- ・ 4 月 19 日 神学校全学集会
- ・ 4 月 28 日 クラス別懇談会
- ・ 5 月 17 日 全学懇談会
- ・ 5 月 21 日 第 17 回キリスト教学校伝道協議会 主題：「若者にとってのキリスト教教育の意義～受け手の視点から」
教員免許状更新講習
- ・ 5 月 24 日 前期学生総会
- ・ 5 月 27 日 運動会
- ・ 5 月 31 日 一般時間「羊飼いのメンタルヘルス」 発題：石丸昌彦（放送大学教授）
- ・ 6 月 6 日～7 日 第 26 回日本伝道協議会（全国大会）
主題「伝道の最前線 ～危機からの再生～」
主題講演講師 小友 聡 教授
公開講演会講師 望月 克仁 全国信徒会会長・鎌倉雪ノ下教員
芳賀 力学長
- ・ 6 月 14 日 全学祈祷会
- ・ 6 月 21 日 一般時間 博士課程後期課程学生の研究発表会
- ・ 6 月 28 日 一般時間 「わたしは弟の番人でしょうか」
発題：裴 熙淑(ハ・セツク)（韓国長老会神学大学教授）
- ・ 6 月 29 日 オープンレクチャー「ヘブライ書におけるイエスの死と昇天」
発題 D・モーフィット（セント・アンドリュース大学教授）
- ・ 7 月 5 日 夏期伝道実習オリエンテーション
- ・ 7 月 12 日 夏期伝道実習壮行祈祷会
礼拝説教：横井伸夫牧師（長野教会）
- ・ 7 月 18 日 高校生会（学生会主催）
- ・ 7 月 24 日～8 月 21 日 夏期伝道実習期間
- ・ 8 月 29 日～30 日 公開夜間神学講座 夏期研修会
国立オリンピック記念青少年総合センター
講師：須田 拓准教授 「福音とは何かー教会は何を信じ、伝えるのかー」

- ・ 9月23日 後期始業式、始業講演：W. ジャンセン教授
「伝道の不思議：アメリカ先住民から学ぶ」
午後 神学生出席教会牧師と教授会との懇談会
- ・ 9月24日 第18回日本伝道を担う青年の集い
礼拝説教：長山 道准教授
献身の勧め：野口幸生牧師(高知東教会)
藤川綾子牧師(奈良高畑教会)
- ・ 9月26日 後期授業開始
- ・ 9月27日 夏期伝道実習報告会
- ・ 10月4日 神学フォーラム「これからの日本伝道－日本伝道協議会を踏まえて－」
発題：関川 泰寛教授、朴 憲郁教授、須田 拓准教授
- ・ 10月11日 一般時間 宗教改革の意義とその展開「悦びの神学 カルヴァンと私たち」
発題：久米あつみ先生(元帝京大学教授)
- ・ 10月15日 高校生会(学生会主催)
- ・ 10月25日 全学修養会 主題「教会の信仰教育」
基調講演Ⅰ 長山 道准教授
- ・ 11月1日 全学修養会
基調講演Ⅱ「若者と生きる教会－教会学校と信仰継承」
キリスト者学生会総主事 大嶋 重徳
- ・ 11月8日～9日 全学修養会
主題講演Ⅰ(一日目)「外の人を内に、内の人を建て上げ、送り出す」
日本バプテスト連盟 恵約宣教教会牧師 藤原 淳賀
主題講演Ⅱ(二日目) 朴 憲郁教授
- ・ 11月15日 留学生懇談会
- ・ 11月23日 11月入試実施日
- ・ 11月29日 一般時間 宗教改革の意義とその展開
「宗教改革500周年を共同で記念するカトリック教会とルーテル教会」
発題：鈴木浩氏(ルーテル学院大学教授)
- ・ 12月3日 オープンキャンパス
- ・ 12月9日 公開夜間神学講座 クリスマス会
- ・ 12月16日 クリスマス礼拝「生まれた方はあの方」
説教 長谷川洋介牧師(小平教会)
- ・ 1月10日～12日 第48回教職セミナー 主題「宗教改革の意義とその展開」
特別講演「宗教改革の美術」真下弥生先生(東京神学大学非常勤講師)
国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・ 1月24日 第2回全学祈祷会
- ・ 1月31日 後期学生総会
- ・ 2月14日～15日 2月入試実施日
- ・ 2月16日～23日 韓国教会研修旅行
- ・ 3月6日 公開夜間神学講座 春季研修会 銀座教会
主題「宗教改革者における〈信仰と教育〉」 講師 朴憲郁教授
- ・ 3月7日 3月入試実施日
- ・ 3月9日 卒業礼拝「主に遣わされる者の幸い」
説教：高知教会 黒田若雄牧師

- ・ 3月10日 卒業・修了式
告 示：芳賀 力学長
励ましの辞：教団総会議長 石橋秀雄牧師
牛込弘方町教会 山ノ下恭二牧師
- ・ 3月13日 公開夜間神学講座 第69期生修了式
- ・ 3月20日 高校生会（学生会主催）